

世界で活躍する指揮の園田隆一郎と演出の伊香修吾が プッチーニ晩年の名作の真価を示す

数あるプッチーニのオペラの中でも、 最も美しく豊かな音楽に溢れている作品

夏が終わると暖かい土地を求めて飛び立ち、春になると戻ってくる「つばめ」。このタイトルが意味するものは何でしょうか？数あるプッチーニのオペラの中でも、最も美しく豊かな音楽に溢れている作品だと思います。第一幕は19世紀パリの豪華なサロン、色彩豊かな音楽の中にオペラではちょっと珍しいピアノのソロが聴こえてきたり、第二幕はダンスホールに集まる学生やお針子たちの喧騒で始まり、夢のように美しいワルツの音楽もあります。ウィーン風とは一味違うラテンのワルツをぜひ味わっていただきたいです。

ですが、ただ美しく派手なだけではありません。プッチーニのオペラでここまで繊細な心の動きを音楽で表現したオペラも他にないのではないでしょうか。第一幕マグダの歌う「ドレッタの美しい夢」が最も有名ではありますが、私はその少し後に歌われるもう一つの aria「陽気な喧騒の甘く崇高なひと時」が大好きなんです。遠い過去を思い起こして懐かしむような繊細なオーケストラの音が印象的で、お金は無くても貧しかったけれども自由に喜びに満ちていたひと時への強い憧れを歌います。これも美しいワルツの音楽ですね。このワルツのリズムで自分の過去を思い出した事がその後のマグダの行動につながっていきます。

第三幕の終盤、マグダが恋人ルッジェーロの母からの手紙を読む場面、そして静かに別れを告げる場面はもうさすがジャコモ・プッチーニ先生と言いますが、マグダの悲しみと決意、純粋なルッジェーロの絶望が美しく繊細な音楽で書かれていて感動的です。

確かにプッチーニのオペラにしては珍しく誰も命を落とさない静かなラストで、いわゆるオペラ的な派手さはありませんが、だからこそ心にじんわりと響く、大人っぽくて現代的な幕切れです。

なかなか上演される機会の少ない名作、この『つばめ』というタイトルが一体どういう意味を持っているのか、ぜひ劇場で体験していただきたいです。



園田隆一郎
Sonoda Ryuichiro

ボローニャ歌劇場、トリエステ歌劇場などを指揮し、国際的な活動を展開する気鋭の指揮者。オペラ、シンフォニーの両分野で活躍する指揮者の一人。2006年、イタリア、シエナのキジアーナ夏季音楽週間「トスカ」を指揮してデビュー。翌年、藤原歌劇団「ラ・ボエーム」を指揮して日本デビューを果たす。同年夏にはベネチアのロッシニ・オペラ・フェスティバル「ランズへの旅」を指揮。その後国内外のオペラやオーケストラとの共演を重ねている。2021年には、ロームシアター京都開館5周年記念事業パフォーマティブコンサート、日生劇場「ラ・ボエーム」を指揮した。今後もオペラ上演やオーケストラ演奏会への出演が予定されている。2017年度第16回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。藤沢市民オペラ芸術監督。

悲劇とも喜劇ともつかない魅力

伊香修吾 (演出)



伊香修吾 Ikko Shugo

東京大学大学院経済学研究科修士課程、英国ミドルセックス大学大学院舞台演出科修士課程修了。その後ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場などで演出助手を務め、2009年にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本において青少年のためのオペラ『ヘンゼルとグレーテル』を演出した。14年にはリトアニアのカウナス国立歌劇場で権代敦彦作曲のオペラ『桜の記憶』の世界初演を演出し、また自身の企画・演出になる「オペラ@能楽堂」がパリ、ジュネーブ、チューリッヒ、ローザンヌで上演された。最近では日生劇場で「ラ・ボエーム」を演出した。第19回(平成20年度)五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。日米リーダーシップ・プログラム スコット・M・ジョンソンフェロー。

あのプッチーニに『つばめ』というオペラがあることをご存知でしょうか。ウィーンの劇場から依頼を受けて作曲を始めたオペレッタがいつの間にかオペラに化けてしまい、しかも第一次世界大戦が勃発したためにウィーンでは初演できなかった(オーストリアとイタリアは敵国同士でした)といういわくつきの作品です。

当時流行のダンス音楽に乗って、年下の男に恋した高級娼婦のお話はコメディタッチで進んでいきますが、その中にもかかわらずかなほの暗さが聴き取れるのは、彼女自身が無意識のうちに苦い結末を予感しているからなのでしょう。悲劇とも喜劇ともつかないところに大きな魅力がある、数多いオペラの中でも他に類を見ない傑作だと思います。プッチーニが自分自身の「愛すべき、忘れられた子」と呼んでいたと言われる『つばめ』。皆さまにもお楽しみいただければ幸いです。

指揮：園田隆一郎

演出・お話：伊香修吾

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

	8日・10日	9日・11日
マグダ	中村恵理*	山田知加
リゼット	熊谷綾乃	脇阪法子
ルッジェーロ	谷口耕平	
フルニエ	宮城朝陽	古屋彰久*
ランバルド	平 欣史	市川敏雅
ベリショー	市川敏雅	平 欣史
ゴパン	有本康人	
クレビヨン	美代開太	
イヴェット	山岸裕梨	飯嶋幸子*
ピアンカ	阿部奈緒	坂田日生
スーザン	上木愛李	藤居知佳子

★客演 *びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー ※都合により出演者が変更になることがあります。

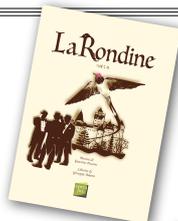
管弦楽：大阪交響楽団

■『公演』をより楽しむために。

『つばめ』はCDも少なく、日本で手に入るのはほとんどが海外盤。でも、前もって全曲を聴いてから公演に臨むと、楽しさは倍増します。その際に対訳本は欠かせません。

・おべら読本「ラ・ロンディーネ〜つばくる」

販売方法等、詳しくは おべら読本出版 operapec.cart.fc2.comまで



■『つばめ』オリジナルグッズ販売!!

公演の関連グッズとして、洗練されたデザインやこだわりの紙質で広く愛用される「ツバメノート」(A5サイズ=300円)とクリアファイル(A4サイズ=250円)(セット価格=500円)をオリジナルデザインで制作!公演に先がけ、びわ湖ホールチケットセンターにて販売します。(窓口・現金のみのお取り扱いです。)



株式会社チェリオコーポレーションは、オペラへの招待「つばめ」を応援しています。

